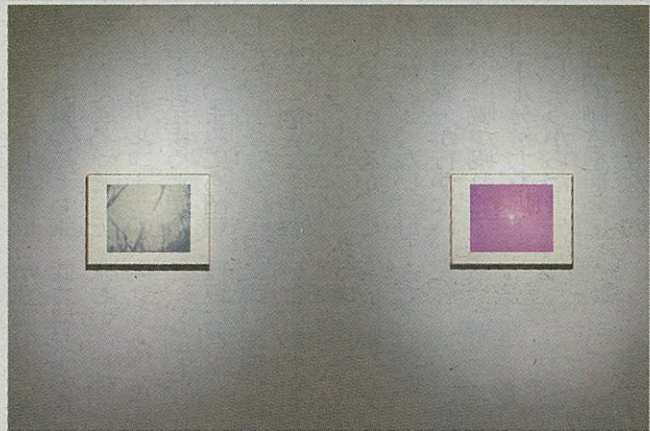


## 文化・芸術



「Re-Unclear」(展示風景部分)

2016/22年、リバーサルフィルム  
35・6枚×43・2枚

菊池雄介 (1986年)

2016年、当時大と語ります。

大川美術館企画展「桐生のアーティスト2022 Natural Mind and Natural Color in KIRYU」から

### 〈名画の扉〉

学の研究員として働いていた北海道函館市のアパートの近所で撮影した「Unclear」と題された作品。あえて期限切れのフィルムを使用し、自身の手ではコントロールできない要素を含ませた本作は、予期しない発色で満たされました。

本展では、プリント「Re-Unclear」し、展示されて新たな空間を生み出している。この展示空間を菊池さんは「Re-Unclear」と名付けました。それが、自身の過去の表現の再解

積であり、同時に自分への返信の形でもある

(小此木)

※本展は今週末18日まで。どうぞお出かけ

ください。